

県内他市の削減目標・主な取組・KPI 設定状況

- 削減目標は、バックキャスティング等で独自に目標を設定した自治体（神戸市、神河町）と県目標（48%削減）を踏まえて設定されたと思われる自治体（姫路市、明石市、三田市、宍粟市、新温泉町）に大別されます。
- 脱炭素に向けた施策は、概ね①ライフスタイルの転換、②再エネ・省エネの導入、③資源循環、④吸収源対策（森林整備等）などとなっています。

| | 神戸市（2023年3月） | 神河町（2022年3月） |
|----------|---|--|
| 削減目標 | 2013年度比 60% 削減（2030年度） | 2013年度比 65% 削減（2030年度） |
| 目標設定方法 | ・2050年ゼロカーボンからバックキャスティングで設定 | ・省エネ法努力目標（原単位年平均1.0%低減）や独自の削減見込みを設定し、目標設定 |
| 削減取組とKPI | <p>1. 脱炭素ライフスタイルへの転換</p> <p>○新築住宅の省エネ性能の向上の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新築住宅 ZEH 適合割合 100%（2030年度） <p>○公共交通機関等の利用促進、自転車の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通分担率：35%（2025年度） ・シェアサイクル会員数：10万人（2025年度） <p>○カーボンフットプリントを用いた脱炭素ライフスタイルへの転換の意識醸成</p> <p>2. 水素エネルギーの利用促進</p> <p>○市民生活への水素エネルギーの利活用拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新車販売台数 FCV 割合 3%（2030年度） ・水素ステーション設置の国施策を推進 <p>3. 電動車の普及促進</p> <p>○電動車の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新車販売台数に占める次世代自動車の割合 50～70%（2030年度） ・充電基設置の国施策を推進 <p>○外部給電・神戸モデル推進に伴う、電動車の魅力向上</p> <p>4. 再生可能エネルギーの拡大</p> <p>○再エネ導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入量を2019年度の2倍を目安とする。 <p>○共同購入事業を通じた家庭用太陽光パネル設置のサポート</p> | <p>※KPI の目標値は別途、総合計画で設定</p> <p>1. エネルギーの脱炭素化</p> <p>○太陽光発電システムの設置及び自家消費の促進</p> <p>○太陽熱利用システム、地中熱利用システムの導入</p> <p>○RE100 電力調達、○森林バイオマス利活用検討</p> <p>(KPI) 太陽光発電の導入目標</p> <p>2. 省エネルギーの推進</p> <p>○住宅、建築物における省エネ性能の向上</p> <p>○町民・事業者に対する省エネ診断受診の推奨</p> <p>○省エネ性能の高い設備・機器等の導入促進</p> <p>(KPI) エネルギー消費量、公共施設のCO2排出量</p> <p>3. エネルギーマネジメントの推進</p> <p>○HEMS、BEMS等の普及促進、○EMSの情報提供</p> <p>(KPI) HEMS、BEMSに係る情報発信回数</p> <p>4. 脱炭素化意識の醸成</p> <p>○COOL CHOICEの推進に向けた普及啓発</p> <p>○環境教育、環境学習の取組の推進</p> <p>(KPI) 出前講座の階数</p> <p>5. ごみの減量</p> <p>○プラ容器包装の分別収集、リサイクルの推進</p> <p>(KPI) コンポスト補助件数、可燃ごみの排出量、生ごみの排出量、レジ袋の使用削減割合</p> <p>6. 移動手段・輸送手段の脱炭素化</p> <p>○公共交通機関の利用促進</p> <p>○電気自動車等の率先導入、インフラ整備</p> <p>(KPI) バス利用割合、公共バスの利用者数</p> <p>7. 森林吸収機能の増強</p> <p>○健全な森林の整備、保安林等の適切な管理、保全</p> <p>(KPI) 間伐施業面積、林業技術者数</p> |

| | 姫路市 (2023年3月) | 明石市 (2023年7月) |
|----------|--|---|
| 削減目標 | 2013年度比 48% 削減 (2030年度) | 2013年度比 48% 削減 (2030年度) |
| 目標設定方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・国・県計画より市削減量を算定(按分法) ・県目標 (48%) を踏まえて設定? | <ul style="list-style-type: none"> ・国計画等を参考に削減量を試算 ・県目標 (48%) を踏まえて設定? |
| 削減取組とKPI | <p>1. 市民生活における脱炭素化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カーボンニュートラルの啓発 ○住宅の脱炭素化の促進 ○脱炭素型ライフスタイルに向けた行動変容の促進 <p>2. 事業活動における脱炭素化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○企業への省エネ・再エネ設備等の導入支援 ○企業へのカーボンニュートラルの促進 ○姫路市の率先行動 <p>3. 脱炭素型の交通環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○次世代自動車の導入促進 ○モビリティ・マネジメントの推進 ○公共交通機関の利便性向上 ○歩きたくなるまちなかの形成 <p>4. 新エネや再エネ等の導入促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギーの導入拡大 ○水素エネルギーの利用拡大に向けた環境整備 ○新たなエネルギーの導入促進 <p>5. 森林等吸収源対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緑化事業の推進、○木材の利活用の推進 ○ブルーカーボン生態系の活用 ○森林環境譲与税を活用した適正な森林管理 <p>6. 気候変動適応策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○脱炭素化によるレジリエンスの向上 ○防災・減災にも資する環境配慮活動の推進 ○自然災害に備える減災対策の推進 ○災害廃棄物の処理体制の確立 <p>■KPI</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市域の温室効果ガス排出量 ○市域での再生可能エネルギー年間発電量 ○1人1日当たりの家庭系ごみ排出量 ○事業者への太陽光発電導入助成件数 ○市内総生産 (名目) ○次世代自動車の導入助成件数 ○姫路城周辺の歩行者・自転車交通量 ○特定間伐等促進計画に基づく間伐面積 | <p>戦略1 エネルギーの効率的な利用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 省エネルギー機器・設備の普及や住宅・建築物のゼロエネルギー化を促進します。 <p>戦略2 再生可能エネルギーの最大限導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 太陽光のポテンシャルに恵まれた地域特性を最大限に生かし、太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入を促進するとともに、再生可能エネルギー由来の電気の利用を推進します。 <p>戦略3 脱炭素型の交通・まちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 電気自動車などの次世代自動車の利用を促進するとともに、公共交通が利用しやすく、コンパクトでウォークアブル(歩きたくなる)なまちづくりに取り組みます。 ◇ 海岸線に沿って連なるコンパクトな市街地ごとの脱炭素化を推進します。 <p>戦略4 資源循環のまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ プラスチックごみや食品ロス削減などにより、ごみの発生を抑制するとともに、地域資源の循環利用を促進します。 <p>戦略5 吸収源の保全・創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 緑地の保全や藻場などのブルーカーボンの創出など、明石の豊かな自然を生かした取組を通じ、二酸化炭素の吸収源を確保します。 <p>戦略6 脱炭素型ライフスタイル・ビジネス・マイルへの転換促進</p> <p>■KPI</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世帯あたりエネルギー消費量 ○業務就業人あたりエネルギー消費量 ○省エネ性能の高い新築戸建住宅の割合 ○住宅用太陽光導入件数 ○公共施設太陽光設置施設数 ○次世代自動車の導入割合 ○公共交通利用者数 ○脱炭素に取り組む地区・街の創出 |

| | 三田市 (2023年3月) | 宍粟市 (2022年3月) |
|----------|--|---|
| 削減目標 | 2013年度比 49% 削減 (2030年度) | 2013年度比 48% 削減 (2030年度) |
| 目標設定方法 | ・省エネ法努力目標(消費原単位を年平均1.0%低減)等より削減量を試算して目標設定 | ・国・県計画より市削減量を算定(按分法) ・県目標(48%)を踏まえて設定? |
| 主な取組とKPI | <p>1. 地域と共生する再生可能エネルギーの導入</p> <p>○エネルギーの脱炭素化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの導入促進 ・太陽エネルギーの利用拡大 ・未利用エネルギー等の活用促進 ・水素エネルギー等の利活用 <p>(KPI) 市内 太陽光発電導入比 16%(2030年) 公共施設太陽光発電導入率 50%(2030年)</p> <p>2. 更なる省エネルギー対策</p> <p>○省エネルギーの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会活動における省エネルギーの促進 ・住宅・建築物の省エネルギーの促進 <p>(KPI) 市事業の電力使用量 20%削減 16%(2030年) 市域 CO2 排出量 47%削減(2030年)</p> <p>○移動手段・輸送手段の脱炭素化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボン・ドライブの促進 ・環境に配慮した自家用車の活用 ・環境に配慮した移動手段の活用 ・貨物輸送における省エネルギーの促進 <p>(KPI) 市内 EV, PHV 保有台数 2021年 7.6倍(2030年) 地域内交通導入箇所 2→5箇所(2030年)</p> <p>3. CO₂の排出抑制と吸収機能の保全・拡充</p> <p>○ごみの減量</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの発生抑制・再使用の促進 ・再資源化の推進 <p>(KPI) ごみ排出量 2021年度比 5%削減(2030年度) ごみ再利用率 17→18.4%(2030年度)</p> <p>○里山の保全・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山を守り、活かす <p>(KPI) 育成プログラム団体 10団体以上(2030年度) 里山ボランティア活動日数 250→310日</p> <p>○CO₂吸収源の保全・拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化の推進 ・新たな CO₂ 吸収技術の検討 <p>(KPI) 緑化箇所数 108→125箇所以上 公園ボランティア活動箇所 68→95箇所以上</p> <p>4. 脱炭素意識の醸成によるオール三田での取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素意識の醸成 <p>(KPI) 環境学習プログラム 23→30講座 クールチョイス会議参加事業者 15事業者</p> | <p>※KPI は未設定</p> <p>1. 森林の地球温暖化防止機能の発揮</p> <p>○適切な森林整備の促進</p> <p>○宍粟材の利用促進</p> <p>○協働による森林保全</p> <p>2. 再生可能エネルギーの導入促進</p> <p>○太陽光発電</p> <p>○木質バイオマス</p> <p>○小水力発電</p> <p>○未利用再生可能エネルギー</p> <p>3. 省エネルギーの推進</p> <p>○家庭等における省エネルギー</p> <p>○行動・設備の普及促進</p> <p>○環境にやさしい交通利用</p> <p>○環境に配慮したライフスタイルの普及啓発</p> <p>○5R 活動の推進</p> <p>4. 市事務事業における削減</p> |

| 新温泉町（2023年3月） | |
|---------------|---|
| 削減目標 | 2013年度比 50% 削減（2030年度） |
| 目標設定方法 | ・省エネ法努力目標（消費原単位を年平均1.0%低減）等より削減量を試算して目標設定 |
| 主な取組とKPI | <p>※KPI は未設定</p> <p>1. 建物等の省エネルギー化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住宅、建築物における省エネ性能の向上 ○事務所等のZEB化、住宅のZEH化の促進 ○省エネ性能の高い設備・機器等の導入促進 ○省エネ診断受診の推奨 ○省エネ対策等の普及啓発と情報提供 <p>2. カーボンフリーエネルギーへの転換</p> <ul style="list-style-type: none"> ○再生可能エネルギーの導入促進 ○温泉熱エネルギーの利用拡大 ○小型水力発電の導入検討 ○RE100 電力の調達 ○水素エネルギーの活用に向けた検討 ○各種発電事業者に向けた情報の発信 <p>3. 移動や輸送に伴うCO₂の排出削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○エコドライブの推進 ○電気自動車、燃料電池自動車等の普及促進 ○交通体系の合理化に向けた検討 <p>4. ごみの焼却に伴うCO₂の排出削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ○5Rの推進 ○その他紙製容器包装、プラスチック製容器包装、プラスチックごみの区分及び減量、リサイクルの推進 ○生ごみの減量に向けた取組の推進 ○資源ごみ集団回収運動の推進 <p>5. エコ・コンパクトタウンの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然資源を生かしたエネルギー地産地消のまちづくりの推進 ○再生可能エネルギーによる地域経済の活性化 <p>6. 気候変動対策に関する普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○COOL CHOICEの推進に向けた普及啓発 ○環境教育、環境学習の取組の推進 ○専門家等との連携体制の構築 <p>7. 健全な森林の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○健全な森林の整備、保安林等の適切な管理、保全 ○建築物における地場産材の利用推進 |